浮世絵からジャポニスム

西暦	欧米の出来事	欧米の画家、 建築家、 彫刻家
1600	イギリス東インド会社設立（１６００）	
1650		
1700		
1750	シノワズリー 産業革命（１７６０） アメリカ独立宣言（１７７６） フランス革命（１７８９）	
1800	第１回ロンドン万国博覧会（１８５１） 第１回パリ万国博覧会（１８５５） 第２回パリ万国博覧会（１８６７） 第３回パリ万国博覧会（１８７８） 第４回パリ万国博覧会（１８８９）	
1850		
1900	第５回パリ万国博覧会（１９００）	
1950		

ミケランジェロ・メリージ・ダ・カラヴァッジオ Michelangelo Merisi da Caravaggio イタリア バロック 1571～1610
ピーテル・パウル・ルーベンス Pieter Paul Rubens ドイツ バロック期のフランドルの画家 1577～1640
ヤーコプ・ヨールダンス Jacob Jordaens オランダ バロック期のフランドルの画家 1593～1678
レンブラント・ハルメンス・ファン・レイン Rembrandt Harmensz van Rijn オランダ バロック 1606～1669
ディエゴ・ベラスケス Diego Rodriguez de Silva y Velázquez スペイン バロック 1599～1660
アンソニー・ヴァン・ダイク Anthony van Dyck フランドル バロック期のフランドルの画家 1599～1641
フランス・ハルス Frans Hals オランダ バロック 1582～1666
ジョルジュ・ド・ラ・トゥール Georges de La Tour フランス バロック 1593～1652
ヨハネス・フェルメール Johannes Vermeer オランダ バロック 1632～1675
ヤコブ・ファン・ライスダール Jacob van Ruisdael オランダ バロック 1628～1682
クロード・ロラン Claude Lorrain フランス バロック 1600～1682
ニコラ・プッサン Nicolas Poussin フランス バロック 1594～1665
アントワーヌ・ヴァトー Antoine Watteau フランス ロココ 1684～1721
フランソワ・ブーシェ François Boucher フランス ロココ1703～1770
ジャック＝ルイ・ダヴィッド Jacques-Louis David フランス 新古典主義 1748～1825
フランシスコ・ホセ・デ・ゴヤ・イ・ルシエンテス Francisco José de Goya y Lucientes スペイン 1746～1828
ジャン＝バティスト・カミーユ・コロー Jean-Baptiste Camille Corot フランス バルビゾン派 1796～1875
テオドール・ルソー Théodore Rousseau フランス バルビゾン派 1812～1867
ギュスターヴ・クールベ Gustave Courbet フランス 写実主義 1819～1877
ポール・ドラローシュ Paul Delaroche フランス 新古典主義 1797～1856
ワシリー・カンディンスキー Wassily Kandinsky ロシア 1866～1944
アンリ・マティス Henri Matisse フランス 野獣派1869～1954
ピエト・モンドリアン Pieter Cornelis Mondriaan オランダ 1872～1944
モーリス・ド・ヴラマンク Maurice de Vlaminck フランス 野獣派1876～1958
パウル・クレー Paul Klee スイス 1879～1940
パブロ・ピカソ Pablo Picasso スペイン 1881～1973
マルク・シャガール Marc Chagall ロシア出身フランス 1887～1985
アメデオ・クレメンテ・モディリアーニ Amedeo Clemente Modigliani イタリア フランスで活躍 1884～1920
ジョルジョ・デ・キリコ Giorgio de Chirico イタリア シュルレアリスム 1888～1978
マックス・エルンスト Max Ernst ドイツ シュルレアリスム 1891～1976
ジョアン・ミロ Joan Miró スペイン 1893～1983
ジャン・デュビュッフェ Jean Dubuffet フランス アンフォルメルの先駆者 1901～1985
サルバドール・ダ＝Salvador Dalí スペイン ロイ・リキテンスタイン Roy Lichtenstein アメリカ ポップアート 1923～1997
アンディ・ウォーホル Andy Warhol アメリカ ポップアート 1928～1987
ジャック＝ルイ・ダヴィッド Jacques-Louis David フランス 新古典主義 1748～1825
ポール・ドラローシュ Paul Delaroche フランス 新古典主義 1797～1856
ギュスターヴ・クールベ Gustave Courbet フランス 写実主義 1819～1877
テオドール・ルソー Théodore Rousseau フランス バルビゾン派 1812～1867
ジャン＝バティスト・カミーユ・コロー Jean-Baptiste Camille Corot フランス バルビゾン派 1796～1875
ジャン＝オーギュスト・ドミニク・アングル Jean Auguste Dominique Ingres フランス 新古典主義 1780～1867
カスパー・ダーヴィト・フリードリヒ Caspar David Friedrich ドイツ ロマン主義 1774～1840
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー Joseph Mallord William Turner イギリス ロマン主義 風景画 1775～1851
ジョン・コンスタブル John Constable イギリス 風景画1776～1837
テオドール・ジェリコー Théodore Géricault フランス ロマン主義 1791～1824
フェルディナン・ヴィクトール・ウジェーヌ・ドラクロワ Ferdinand Victor Eugène Delacroix フランス ロマン主義 1798～1863
オノレ・ドーミエ Honoré-Victorin Daumier フランス 風刺画 油彩画 リトグラフ 1808～1879
ジャン＝フランソワ・ミレー Jean-François Millet フランス バルビゾン派 1814～1875
ジャン＝レオン・ジェローム Jean-Léon Gérôme フランス 彫刻家でもある 1824～1904
ギュスターヴ・モロー Gustave Moreau フランス 象徴主義 1826～1898
オディロン・ルドン Odilon Redon フランス 象徴主義 1840～1916
ジョン・エヴァレット・ミレー John Everett Millais イギリス ラファエル前派 1829～1896
ジェームズ・マクニール・ホイッスラー James Abbott McNeill Whistler アメリカ 耽美主義 ロンドンで活躍 浮世絵の影響 1834～1903
ダンテ・ゲイブリエル・ロセッティ Dante Gabriel Rossetti イギリス ラファエル前派 1858～1882
クロード・モネ Claude Monet フランス 印象派 1840～1926
ポール・セザンヌ Paul Cézanne フランス 印象派 1839～1906
ジャコブ・カミーユ・ピサロ Jacob Camille Pissarro フランス 印象派1830～1903
エドゥアール・マネ Édouard Manet フランス 印象派 1832～1883
エドガー・ドガ Edgar Degas フランス 印象派1834～1917
アルフレッド・シスレー Alfred Sisley イギリス 印象派 1839～1899
ピエール・ピュヴィス・ド・シャヴァンヌ Pierre Puvis de Chavannes フランス 象徴主義 1824～1898
アレクサンドル・カバネル Alexandre Cabanel フランス 1823～1889
エドゥアール・ムンク Edvard Munch ノルウェー 表現主義 1863～1944
ジョルジュ・スーラ Georges Seurat フランス 新印象派 1859～1891
ポール・ゴーギャン Eugène Henri Paul Gauguin フランス 印象派 1848～1903
ピエール＝オーギュスト・ルノワール Pierre-Auguste Renoir フランス 印象派1841～1919
ヴィンセント・ファン・ゴッホ Vincent van Gogh オランダ 印象派 1853～1890
アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック Henri de Toulouse-Lautrec フランス 印象派 1864～1901
アルフォンス・マリア・ミュシャ Alfons Maria Mucha チェコ アール・ヌーヴォー 1860～1939
ウジェーヌ・グラッセ Eugène Grasset スイス アール・ヌーヴォー 1845～1917
ルネ・ラリック René Lalique フランス アール・ヌーヴォー 1860～1945
シャルル・マルタン・エミール・ガレ Charles Martin Emile Gallé フランス アール・ヌーヴォー 1846～1904
ウィリアム・モリス William Morris イギリス アーツアンドクラフツ 1834～1896
ルイス・カムフォート・ティファニー Louis Comfort Tiffany アメリカ アール・ヌーヴォー ティファニー社の経営者であるチャールズ・L・ティファニーの息子 1848～1933
美術商 サミュエル・ビング Samuel Bing ドイツアール・ヌーヴォーの名付け親 1838～1905
マックス・クリンガー Max Klinger ドイツ 版画 1857～1920
グスタフ・クリムト Gustav Klimt オーストリア 1862～1918
エミール・ベルナール Émile Bernard フランス 象徴主義 1864～1941
ピエール・ボナール Pierre Bonnard フランス ナビ派1867～1947
造園家 ジョセフ・パクストン Joseph Paxton イギリスクリスタルパレスの設計 1803～1865
建築家シャルル・ガルニエ Charles Garnier フランス 1825～1898
建築家ルイス・ヘンリー・サリヴァン Louis Henry Sullivan アメリカ 1856～1924
建築家アントニ・ガウディ Antoni Plácid Guillem Gaudí i Cornet スペイン カタルーニャ 1852～1926
建築家エクトール・ギマール Hector Guimard フランス アール・ヌーヴォー 1867～1942
建築家フランク・ロイド・ライト Frank Lloyd Wright アメリカ 1867～1959
建築家 チャールズ・レニー・マッキントッシュ Charles Rennie Mackintosh スコットランド アーツアンドクラフツ アール・ヌーヴォーの提唱者 グラスゴー派 1868～1928
建築家ヴァルター・アードルフ・ゲオルク・グロピウス Walter Adolph Georg Gropius ドイツ 1883～1969
建築家ル・コルビュジエ Le Corbusier スイス 1887～1965
建築家ルートヴィヒ・ミース・ファン・デル・ローエ Ludwig Mies van der Rohe ドイツ 1886～1969
建築家 エーロ・サーリネン Eero Saarinen フィンランド アメリカに移住 1910～1961
建築家ヨーン・ウッツォン Jørn Utzon デンマーク 1918～
建築家レンゾ・ピアノ Renzo Piano イタリア 1937～
彫刻家 フランス＝オーギュスト＝ルネ・ロダン François-Auguste-René Rodin フランス 1840～1917
彫刻家 アントワーヌ・ブールデル Antoine Bourdelle フランス 1861～1929
彫刻家 アリスティド・マイヨール Aristide Maillol フランス 1864～1944
彫刻家ヘンリー・ムーア Henry Spencer Moore イギリス 1898～1986
彫刻家アルベルト・ジャコメッティ Alberto Giacometti スイス 1901～1966
エティエンヌ・ルイ・ブレー Étienne-Louis Boullée フランス 1728～1799

浮世絵とジャポニスム

１７世紀頃より、ヨーロッパに東洋の文化が入ってきました。
１８世紀の中頃になると、イギリスでは中国風の庭園が流行しました。この背景にはシノワズリーといった文化の流れがあります。
中国の絵画、工芸品や陶磁器などが入ってきて、徐々にヨーロッパ伝統的な様式に影響をあたえてきました。
この頃の陶磁器には中国の景徳鎮などにかわって日本の伊万里焼きが多く輸入されました。その後、多くの日本の美術品が輸入され、絵画のみならず、デザインや建築、モードなど多くの分野でヨーロッパ伝統的な様式に影響をあたえました。この文化の流れを一般にフランス語の「ジャポニスム」といっています。この影響は現在の様々な分野に残っています。
特に浮世絵は中国などにはない日本独自の芸術です。ヨーロッパなどは芸術至上主義なので、このような芸術絵画が一般の庶民（市民）が多く所有していたこと自体が当時としては世界でも稀に見ることでした。
浮世絵に描かれた日本（江戸）の建物や工芸品、着物、人物、風景などのモチーフ、デザインや構図などは当時のヨーロッパにはないものでした。
　また、印象派の画家の中には、当時の日本（江戸）の社会制度やライフスタイルとそれを支える思想を研究し、実践を試みた人たちもいたようです。
では、いつごろから浮世絵はヨーロッパに渡ったのでしょうか。
１８２６年に江戸にも行っていたドイツ人医師シーボルトは葛飾北斎に傾倒し、肉筆画を依頼しています。シーボルトの浮世絵コレクションは現在オランダやフランスのパリにあります。
その頃の江戸といえば、１７９４年に東洲斎写楽が出ています。１８０４年には喜多川歌麿が投獄され１８０６年になくなっています。
葛飾北斎の『北斎漫画』は１８１４年に初編が刊行されています。歌川派の創始者歌川豊春も１７７０年代にはすでに活動しています。
　１８５０年代にはパリでは日本美術を扱う店が開かれロンドンでは展示会が開かれていたようです。サウスケンジントン博物館（現在のヴィクトリア＝アルバート博物館）が日本美術の展示を始めたのは 1854 年です。
しかし、１７００年前後には伊万里焼きが本格的に輸出されていますので、この包装紙に浮世絵が使われたたこともありますので、浮世絵がヨーロッパの人々の目にとまったのは１８００年以前のことかもしれません。
　浮世絵をはじめ日本（江戸）の美術工芸品の流入を一変させたのは万国博覧会です。
万国博覧会は１８５１年にロンドンで最初に開かれました。１８５０年から１９００年までの５０年間は新しい工業製品のアイデアがたくさん生まれた時期でもあります。１８５１年のロンドン万国博覧会では鉄とガラスでできた建築（通称水晶宮といわれる）ができました。１８６７年のパリ万国博覧会ではファクシミリの原型や、水圧式エレベーターなど展示されています。1878 年のパリ万国博覧会ではトーマス・エジソンの蓄音機や自動車、自由の女神像の頭部などが出品されました。１８８９年のパリ万国博覧会ではエッフェル塔が建設され、１９００年のパリ万国博覧会では地下鉄や動く歩道が建設されました。
２０世紀の近代化、都市化に貢献したアイデアがたくさん生まれたことは、ジャポニスムと無縁ではないでしょう。産業革命で工業製品が生産されるようになったのですが、その品質は当初はひどいものでした。デザインという言葉もこの頃出ています。
ビジュアルデザインはトゥールーズ＝ロートレックのポスターのように印刷物などで市中に出て行きました。デザイナーが設計したものを製品にするためのインダストリアルデザインもジャポニスムの時代にうまれました。美術商サミュエル ビング (Samuel Bing) がパリにオープンした商店の名称がもとになった「アールヌーボー」・「アールデコ」といった新しい芸術様式も生まれています。
いずれも、浮世絵に描かれた江戸の工芸品にあふれていた生活があこがれのライフスタイルとなっていたからなのです。当時の万国博覧会では工芸品も多く出品されていました。
１８６７年のパリ万国博覧会に日本からはじめて参加しています。江戸幕府と薩摩藩と対抗した形で参加しています。ここで出品された浮世絵や江戸の工芸品は人々の熱狂的な支持をうけています。デザインブランドで有名なバカラは 1867 年と 1878 年のパリ万国博覧会では、グランプリを獲得していますが、そのホームページで１８７８年にはジャポニスムという新しいデザインがうまれたとしています。

パリ万国博覧会

国際的な万国博覧会は１８５１年ロンドンで開かれた。展示館にはジョセフ・パクストンが設計した鉄とガラスでできた通称「水晶宮」（温室建築）が建設されました。
以後、パリ・ニューヨークやロンドンなどで開催されました。明治期に出品された浮世絵はジャポニスムを形成させた。
パリ万国博覧会（Expositions universelles de Paris）は、フランスの首都であるパリで開催された国際博覧会のこと。

第１回
1855 年 5 月 15 日 -11 月 15 日　　２５ヶ国参加　５１６万人が来場。
第２回
1867 年 4 月 1 日 -11 月 3 日
日本が初めて国際博覧会に出展（幕府、薩摩藩、佐賀藩）。
ルイヴィトン銅賞受賞　エルメス銀賞
42 ヶ国が参加、1500 万人が来場。
第３回
1878 年 5 月 1 日 -11 月 10 日
トーマス・エジソンの蓄音機や自動車、自由の女神像の頭部などが出品された。
林忠正通訳として参加
香蘭社金賞受賞
日本は 1878 年、江戸幕府や薩摩藩などが出品した 1867 年に次ぐ、2 度目の公式参加をした。
明治政府や美術商による版画・漆器・屏風・刀の鍔（つば）のほかにも、ギメなどのコレクターも所蔵品を出品。Gazette des　Beaux-Arts をはじめとする美術雑誌や日刊紙は、当時万博のために建てられた日本館の描写、日本の歴史・文化・美術に関する記事を掲載。紙面からは、当時フランスにとって、日本が開国してまもない「未知の国」であったことが伝わってくる。日本人、日本家屋・建築、工芸品・美術品への驚異、関心が示されている。
　この 1878 年、林忠正はパリへ渡り、万博会場で通訳を務めた。フランスに住むことを決意し、美術商として 1905 年まで滞在。作家　エドモン・ド・ゴンクール（弟のジュールは 1870 年に死去）やギメと知り合い、多くの作家・美術批評家の執筆活動に貢献した。また、モネやドガなどと友好を深め、19 世紀末のフランス絵画に代表される印象派に影響を与えた。
36 ヶ国が参加、1616 万人が来場。
バカラは 1867 年と 1878 年のパリ万国博覧会では、グランプリを獲得１８７８年にはジャポニスム
エルメスグランプリ
第４回
1889 年 5 月 5 日 -10 月 31 日
フランス革命 100 周年記念。エッフェル塔が建設された。イルミネーションが行われた。
ルイ・ヴィトングランプリ　35 ヶ国が参加、3225 万人が来場。
第５回
1900 年 4 月 15 日 -11 月 12 日
法隆寺風日本館設置　地下鉄や動く歩道が建設された　4700 万人が来場。

1925 年に現代装飾美術工芸博覧会（Exposition Internationale des Arts Decoratifs et Industriels modernes）、いわゆるアー　ル・デコ博。　以後 1931 年 パリ植民地博覧会（ 1931 年 5 月 23 日 -?）
1937 年 5 月 25 日 -11 月 25 日、　　1947 年 7 月 20 日 -8 月 17 日 に開催されています。

林忠正

嘉永 6 年 (1853)11 月 7 日～明治 39 年 (1906)4 月 10 日

林忠正は現在富山県高岡市にあたる高岡一番町の蘭方医者・長崎言定の二男に生まれました。幼名を重次（志藝二）といいます。
のちに富山藩大参事・林太仲（忠敏）の養嗣子となり、林忠正と名乗ります。
上京し大学南校（現東大）でフランス語を学びます。
明治１１年 (1878)、大学を中退しパリ万博の通訳として渡仏。起立工商パリ支店に入社しました。起立商工社の若井兼三郎に誘われ、日本の美術品を扱う仕事をするようになりました。
同１６年 (1883) に独立しパリに日本美術品店を開き、日本の美術工芸品や浮世絵などを大量に輸出しました。
フランスのみならずヨーロッパのジャポニザンたちと交遊し、日本美術研究者や印象派の画家らに多大な影響を与えています。
日本美術を研究していたエドモンド・ゴンクールが、日本の美術を紹介してフランスに日本美術ブームを引き起こすきっかけとなった重要な作品「北斎」(1891-96) を執筆するにあたり、日本の書を調べるなどして協力するなど、当時ヨーロッパで巻き起こっていたジャポニスム (日本ブーム) の " 発信源 " として活躍しました。
それはのちにアールヌーボーの成立につながっていくことになります。
その一方で、印象派の絵画を初めて日本に紹介するなど、西洋美術の普及に尽力しました。